

# 令和3年度 指定障害福祉サービス事業所マザーグースの家 事業報告

## 1 定員、実利用者数(令和4年3月現在)

事業種別	定員	契約者数	実利用者数
生活介護	40人	38人	38人

## 2 生活支援員の配置状況

利用者3名に対し1名の支援員の職員体制を組んでいる。

## 3 延べ利用者数

	R3									R4			合計 平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
延べ利用者数(人)	820	832	820	764	826	793	829	800	820	544	751	756	9,355
平均利用率(実利用者/定数)	93.0%	90.0%	93.0%	83%	90%	90%	90%	91%	89%	85%	86%	83%	88.62%
前年度延べ利用者数(人)	897	903	878	889	895	852	899	845	761	846	751	877	10,293
前年度平均利用率(実利用者/定数)	101.9%	98.2%	99.8%	97%	97%	97%	98%	96%	95%	92%	94%	95%	96.71%

## 4 障がい支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
令和4年3月末現在	1	4	20	13	38
前年度3月末現在	1	6	19	15	41
比較	0	-2	1	-2	-3

## 5 職員の勤務年数

	2年未満	2～5年	5～7年	7～9年	9～14年	14年～
施設長						1
サービス管理責任者				1		
生活支援員	4	5	3	2(1)	1	1
事務員				1		
看護師	1			1		
管理栄養士	1					
その他(運転手・調理)	5	2		1		

## 6 事故報告書

	転倒	自傷	非常ベルを押す	他害	服薬	食事関係	歯ブラシ間違え
R3.4～R4.3	5	2	1	4	2	1	1

## 7 ヒヤリハット報告

	情緒	他害	異物混入	転倒未遂	無断外出	賞味期限
R3.4～R4.3	2	2	3	1	1	1

## 8 苦情解決・虐待・身体拘束の報告

令和3年4月、5月、8月に安全虐待防止委員会による会議を実施。

身体拘束等の行動制限はなし。

苦情・・・0件

## 9 行事

4月	A班レクリエーション(お買い物、手話披露)
5月	わっしょいスタンプラリー
6月	映画鑑賞会
7月	七夕レクリエーション
8月	わっしょいマザーオリンピック

9月	B班レクリエーション(お楽しみダンス)
10月	農林水産女子チャレンジ応援事業との農福連携事業へ参加 わっしょい秋祭り
11月	外出行事(ピーチナカフェ、マクドナルド) C班レクリエーション(的当てなどミニ運動会)
12月	クリスマス会
1月	成人式
サークル活動	絵画 書道

## 10 保健

施設に到着後毎日、検温・血圧測定の実施をし、体調確認の後でサービス利用している年2回ご利用者、職員の健康診断を実施  
新型コロナウイルス感染症対応マニュアル、BCPの作成  
感染症対策委員会の開催

## 11 防災

避難訓練、水害を想定した避難訓練を年1回ずつ実施(合計3回)  
スマートフォンアプリ「LINEWORKS」にて安否確認の伝達訓練を実施

## 12 食事

自前厨房での利用者個々に応じた食事の提供の実施  
管理栄養士を採用し、利用者さんの年齢や障がい特性に応じた食事提供を行っている。  
コロナ対策を実施し、一度に食べる食事の人数を少なくするため二部制の導入や壁向きの食事、職員の使い捨てエプロンやフェイスガードの着用など感染対策を実施した。

## 13 研修

内部研修	知的障害のある方への支援(自閉症スペクトラム症について)(行動障害について)		
	各種知的障害者福祉協会WEB研修を視聴		
外部研修	新任職員研修	対人援助職の接遇研修	チームリーダー研修
	社会福祉施設経営実務セミナー	クレーム対応力強化セミナー	BCP(初級)研修会
	障害者施設職員研修(初任職員コース)	対人援助職のためのコミュニケーション研修(初級編)	生活支援部会
	徳島県WEB防災セミナー	大塚熱中症オンラインセミナー	施設長会
	中堅職員ファーストステップ研修	対人援助職のためのコミュニケーション研修(上級編)	総務部会
	強度行動障害支援者養成研修(実践)	安全運転管理者講習	日中活動支援部会(WEB)
	記録の書き方研修(WEB)	BCP初級研修会(WEB)	福祉協会理事会(WEB)
	退職手当共済制度改正に伴う説明会	全国知的障害関係施設長等会議(WEB)	
	意思決定支援と虐待防止に関する研修会(WEB)	福祉施設のリスクマネジメント研修(WEB)	
	障がいがある人の自己決定とその支援(WEB)	徳島県新任介護職員合同入職式	
	四国地区人権教育研究大会報告者説明会・原稿検討会		
	徳島県知的障害者福祉協会としての人材確保に係る実行委員会全体会・WEB報告会		
	アサーティブコミュニケーション メンタルヘルス研修		

## 13 事業の重点に対する評価

### 重点事項

#### 新しい形の行事の実行、楽しくマスクの着用する

年間を通しての新型コロナウイルス感染症対策を兼ねた行事づくりに苦慮した。  
そのような中、成人式など、人生の節目といえる行事を挙げて来たのは、20歳を迎えた方、ご利用者、職員、ご家族にとって感慨深いものとなった。マスクが難しいなら支援で工夫し、マスクが出来るようになったら、裏表の間違いないか?など気をつけて支援を実施。

#### 対面式家族会の実施と書面式家族会とで相互の理解を深める

年間を通して数回であったが、徳島県総合教育センターの一室を借りて、対面式の家族会を実施したが、大半は書面での会であった。書面でも、お互いに信頼し合い、理解し合えるような「施設の考え」を家族に伝え、施設と家族会との関係性が希薄にならないように努めた。離れていても「心は繋がっている。」関係であり続けたい。

### マニュアルは常に改定できるよう柔軟に対応する

新型コロナウイルス感染症に適応したマニュアルを作成しており、クラスター発生時、クラスター後の事業再開に向けて、適切に対応が出来た。今後の課題は、誰もが対応できるよう訓練を継続し、新たな変異株に対応したものに、随時変化させていくことを課題と捉えている。

### 14 来年度への展望

新型コロナウイルス感染症は、どこから持ち込まれるかわからない。ご利用者・職員含め家庭内感染にも十分気をつけていかねばならない。ご利用者・職員、家族に対して、フェーズに合わせて適切なお願いをしていくことで集団感染を予防していきたい。

1度経験したクラスター。今後も継続した感染対策を続けることが、日中生活や行事ができることを頭に入れていく。

休園についても、集団感染を防ぐためには躊躇なく実行し、なおかつ非濃厚接触者への継続した支援を行うことが今後の課題となってくる。

## 令和3年度相談支援事業報告書

板野郡委託契約相談支援件数…450件 相談方法、対応は以下の図のとおり。

図1	相談者				
	本人	家族	関係機関	その他	計
年度月別					
4月	22	6	15		43
5月	13	21	15		49
6月	13	16	9		38
7月	14	14	20		48
8月	9	8	20		37
9月	16	7	18		41
10月	10	5	8		23
11月	15	5	12		32
12月	7	9	7		23
1月	11	9	20		40
2月	13	6	15		34
3月	17	9	16		42
計	160	115	175		450
図2	本人	家族	関係機関	その他	計
相談方法					
訪問	44	34	17		95
来所	17	19	18		54
同行	6	1			7
電話	56	57	140		253
メール	35	4			39
個別会議	2				2
関係機関					
その他					
計	160	115	175		450
図3	本人	家族	関係機関	その他	計
時間帯					
106:00～07:59					
08:00～17:59	160	114	174		448
18:00～05:59		1	1		2
計	160	115	175		450
図4	本人	家族	関係機関	その他	計
相談内容					
福祉利用	44	62	128		234
障害理解			2		2
健康医療	13	3	13		29
不安解消	95	49	24		168
保育教育					
家族人間	2		6		8
家計経済		1			1
生活技術	5		2		7
就労支援	1				1
社会参加					
権利擁護					
その他					
計	160	115	175		450

指定特定相談支援計画作成 障がい者…68件 障がい児…8件  
 指定特定相談支援モニタリング 障がい者…50件 障がい児…2件  
 指定一般相談支援事業地域相談支援 障がい者…0件

※徳島県障害者支援専門員の初任者研修2名、現任者研修1名の研修講師として、施設内実習を実施。

### 課題

相談支援事業では板野郡5町と委託契約を結び、地域の事情や状況に合わせて障がい者（児）またその家族と直接関わり、相談を重ねながら各関係機関と連携して各福祉サービス利用へと繋げている。ご利用者の生活上の多様なニーズをどのように把握し、ご利用者の在宅生活をサポートしていくためにできるだけわかりやすく示していくことを心がけている。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだ続いており、地域生活を送るご利用者やその家族の不安解消が図れるよう努めている。

関わる世代では、親亡き後を考える世代が多くあり、今後本人とご家族が安心して生活を送ることができるよう支援体制の構築や環境調整が必要であると考えている。

# 令和3年度 指定放課後等デイサービス事業所マザーグース7 事業報告

## 1 定員、実利用者数(直近月:令和4年 3月)

事業種別	定員	契約者数	実利用者数
放課後等デイサービス	10人	10人	9人

## 2 延べ利用者数

	R3			R4									合計 平均
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
延べ利用者数(人)	127	112	146	138	113	110	106	125	147	117	84	86	1,411
平均利用率	51%	49%	56%	55%	51%	46%	42%	52%	59%	51%	40%	40%	49.3%
前年度延べ利用者数(人)	137	118	129	122	108	124	163	125	136	109	105	128	1,504
前年度平均利用率	55%	51%	50%	49%	51%	52%	60%	54%	54%	47%	46%	49%	51.6%

## 3 職員の勤務年数

	2年未満	2～5年	5～7年	7～9年	9～14年	14年～20年
所長兼児童発達支援サービス管理責任者				1		
児童指導員(正規2、パート2)	2	2				
添乗員(パート)	1					

## 4 事故報告

	他害
R3.4～R4.3	1

## 5 ヒヤリハット報告

	備品破損	他害
R3.4～R4.3	2	1

## 6 虐待・身体拘束報告・苦情解決報告 事例なし

## 7 行事

お楽しみ会、絵本読み聞かせ、かき氷づくり、オンラインスポーツ、ダンス、喫茶(マクドナルド)ハレルヤ工場見学、バルーンアート、買い物学習、初詣、書初め、ドライブ、おやつ作り

## 8 防災

火災、水害を想定避難訓練を各1回ずつ実施している。

## 9 研修

内部研修	オンラインでの虐待防止研修
外部研修	障がいのある人の自己決定とその支援

## 10 事業の重点に対する報告

### 将来を見据えた個別指導の実施

個々の個性を知ることで、それぞれの課題が見つかる。また、伸ばしていく部分も見えてくる。そこを大切に1名1名に応じた将来を見据えた指導を1年1年重ねていっている。

それぞれの児童にとってのコロナ禍を、何もできなかった時代にせず、何かを獲得したと思える1年になっていれればと願い支援を実施した。

### 個々の特性や成長に合わせた情緒面のケア

成長に合わせた体と心のケアを男性指導員、女性指導員のそれぞれの視点から児童を見つめて、1年間の成長を見守った。

## 将来を見据え、児童のうちにマスクなど新しい生活様式の習得をめざす

生活の変化による自閉症特有のこだわりというものを、手洗い、うがい、マスクなどの方向性に変化させ、感染対策に持ち込めたことは、これからの時代にとっても有意義な生活様式の一つになったものと考えられる。無理なく習得し、自身の健康を守る手段を持ったことは大きく、一つ一つ着実にできることを増やせるよう支援する。

## 11 来年度への展望

まずは、多くの児童等利用施設でクラスターが発生している中で、クラスターもなく乗り越えたことに対し、児童、保護者に感謝申し上げたい。

2月に入り、児童1名が当施設利用翌々日に陽性が分かったことで、施設職員3名、児童1名が濃厚接触者に認定され、健康観察期間が明けるまで事業の再開が出来なかったことはということが起きた。誰が悪いわけでもなく、ただ陽性者の発熱もすぐに治まり、今は健康でいてくれることがなによりの救いである。これからも、感染対策を行い、職員、児童、保護者に安心して利用していただける施設でありたい。

利用自粛の児童が多かったが、学校でのコロナ感染が広がっていたため、万が一持ち込んではいけないという意識で休まれていたという。

来年度2名の新しい児童が契約を行う、6月には高校生の児童との契約も行う予定である。地域の児童の拠り所になるマザーグース7として、利用率も上げながら、利用満足度も上げていく姿勢で令和4年度をスタートしたい。

# 令和3年度 マザーグースの家 日中一時支援事業 事業報告

## 1 定員

事業種別	定員
日中一時支援事業	10人

## 2 延べ利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ利用者数(人)	0	0	0	0	2	2	1	1	2	3	0	8	19
昨年度比延べ利用者数(人)	0	0	0	0	0	2	1	1	2	3	0	8	17

## 3 1年の報告

新型コロナウイルス感染症の影響があったが、積極的に地域の利用者への受け入れを継続してきた。今後も、地域の社会資源としての日中一時事業であり続けたい。